

審 議 会 会 議 録

会議名称	平成30年度 第1回伊達市放課後子ども教室運営委員会議		
議 題	議事 ① 平成29年度伊達市放課後子ども教室実施状況について ② 平成30年度伊達市放課後子ども教室の事業について		
開催日時	平成30年6月26日（火）18：30～19：40		
場 所	伊達市役所第2庁舎会議室1		
出席委員	小林浩路 委員長、勝木真弓 副委員、上埜幸喜 委員、葛西正敏 委員、武者ますみ 委員、山木広幸 委員、栗橋司朗 委員、日下しのぶ 委員、森崎眞由美 委員、三浦顕多 委員（計10名）		
	所管部課名	教育部生涯学習課	
公 開 非 公 開 の 別	<input checked="" type="checkbox"/> 公 開	傍聴者の人数	なし
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	
<p>【審議会の概要】</p> <p>1. 開会（事務局：社会教育係長）</p> <p>2. 教育長挨拶</p> <p>3. 協議</p> <p>（1）平成29年度伊達市放課後子ども教室実施状況について</p> <p>（2）平成30年度伊達市放課後子ども教室の事業について</p> <p>【レジュメに基づき事務局より説明】</p> <p>【質疑・意見交換】</p> <p><input type="checkbox"/> 議長 長和小学校の放課後子ども教室ボランティアスタッフ（以下、「ボランティアスタッフ」と記載する）の状況はどうか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 事務局 現在は、伊達西小学校のコーディネーターに長和小学校のコーディネーターを兼務してもらい、学習指導員についても伊達西小学校と同じボランティアスタッフ、安全管理人については、伊達西小学校とは違うメンバーで4名ほどの登録をいただいています。また、長和小学校で新たにボランティアスタッフに加わった方からは、時間の都合がつけば伊達西小学校でも協力したいとの声が上がっています。</p> <p><input type="checkbox"/> 委員 長和小学校の児童の送迎については、学校から長和コミュニティセンター（以下、「コミュニティセンター」と記載する）まで行っているのですか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 事務局</p>			

コミュニティセンターで実施する放課後子ども教室（以下、「子ども教室」と記載する）では、学校からコミュニティセンターまでの送迎しています。子ども教室終了後、児童クラブに登所する児童については、ながわ児童クラブまでの送迎を行っております。また、伊達西小学校の低学年については、教室まで迎えに行き、子ども教室の活動場所まで連れてきます。

□委員

子ども教室が終わった後に、児童クラブに行かない子どもはどうするのですか。

●事務局

そういった子どもたちは、通常の学校が終わった後の帰宅と同じ扱いで、そのまま帰宅していただきます。

□委員

コミュニティセンターのルールとして、学校終了後は、一度自宅に帰宅し、荷物を置いてからでないと来られないとしているが、そのあたりについてはどうか。

●事務局

子ども教室においても、そのルールに則り、子ども教室の終了後にコミュニティセンターで遊びたい子どもは、一度帰宅した後でないと、遊びに来られないとしており、教室日より等で周知を図っています。

□委員

伊達西小学校と長和小学校の児童クラブの位置について教えてください。

●事務局

伊達西小学校については、学校外に別棟で児童クラブ専用施設があり、子ども教室事業は学校内の特別教室や体育館などで事業を実施しております。長和小学校は、学校に隣接したコミュニティセンターにて子ども教室を行い、児童クラブは学校内の空き教室で事業を行っており、伊達西小学校と長和小学校は逆の形に近いです。

□委員

長和小学校での冬期間の子どものたちの安全を考えたときに、はたして学校内での子ども教室の実施は難しいのでしょうか。

●事務局

基本的には、子ども教室事業は学校に負担をかけない立場で実施しており、長和小学校では、児童クラブが学校内にあることや、建物がもともと中学校校舎であることなどから、子ども教室を実施するための空き教室が確保できないこと、放課後の子どもが集まる場所となっているコミュニティセンターで事業実施について学校側から提案を受けたりなどから、コミュニティセンターで実施するに至りました。将来的には、長和小学校で空き教室ができた場合や、学校側との協力を仰ぎながら学校施設内での活動を実施することも考えておりますが、現時点では、コミュニティセンターでの活動をメインに考えています。

□委員

平成29年度に実施したアンケート結果に、「体験の日の拡充」とあるが、この結果を受けて、平成30年度はどういった具体的な拡充を行っているのか。行っていないのであればその見込みはあるのか。

●事務局

子どもたちにとって「勉強」よりも「体験や遊び」の方が楽しく感じるのは、当然のことですので、アンケートに反映されたと考えています。ただ、本市での子ども

教室の方針として、学習に重きを置いているため、まずは「学習の日」を確保し、体験の日を増やすことには至っていないという現状です。

□議長

事務局としても、長和小学校の形式ではなく、伊達西小学校のような形式での運営が理想ですか。

●事務局

確かに理想ではありますが、長和小学校内の空き教室を使用して、児童クラブを運営している以上、他の学年が授業中の時間帯でかつ、特別教室がふさがっている状況では学校内で子ども教室を実施することは難しいと考えています。コミュニティセンター運営で支障がないのであれば、コミュニティセンターを利用して子ども教室事業を継続してもよいのではないかと考えます。

□委員

実際に長和小学校で子ども教室事業を実施した感想ですが、先日の事業実施日は、非常に風の強い日であり、低学年の児童は大変だったなどの印象です。今後、吹雪や大雨の日であれば、大人にとっては短い距離であっても、子どもにとっては辛いのではないかと感じました。安全という観点では学校内で子ども教室を実施できるほうが望ましいと感じます。

□委員

市のホームページでも公表している内容ですが、コミュニティセンター前の通り（長和小学校グラウンド側）は通学路の危険箇所としてあげられているところです。以前から横断歩道の設置を要望していますが設置に至っておらず、当面の間は学校の生徒指導により対応していただくことになっています。ただ、『安全安心な居場所づくりとしての子ども教室』であるにもかかわらず、危険箇所を通らなければならないということは、矛盾があるのではと考えます。確かに、物理的な理由で、学校内に空き教室を確保できないのであれば、仕方ないとは思いますが、何らかの方策を取ることを考える余地はあるのではと思います。

●事務局

学年によって終業時間が違うため、低学年で子ども教室を実施できるときであっても、高学年で特別教室を使うことから、なかなか空き教室を確保するのは難しいという話は長和小学校の校長先生とも話しています。ただ全学年が同じ時間に終わる日には、特別教室や体育館を利用することも学校側と話し合い、検討していきたいと思っています。

□委員

子ども教室を学校内で実施することが、子どもにとって安全安心であることは重々承知していますが、低学年の子ども教室を実施する際に、高学年が授業中であれば、家庭科室や理科室等を高学年が使用する場合は大いにあります。伊達西小学校では多目的室という場所がありますが、長和小学校にはそういった余裕教室がないため、コミュニティセンターを活動場所として話は進んだのだと思います。ただ子どもにとって学校内で活動できることに越したことはないのですが、低学年・高学年の時間割の編成上、難しい部分もあります。冬期間に向けて、学校内での対応を検討したいと思います。また、前回に実施した際に、低学年と高学年にまたがって兄妹がいる場合に、子ども教室に参加することで、兄妹と一緒に帰れないケースがあったり、早く終わった際に、低学年の児童にコミュニティセンターで待機してもらい、時間を合わせて一緒に帰ってもらったこともありましたが、低学年の児童の待機スペースのようなものを用意していただければと思います。

●事務局

事務局として検討したいと思います。ところで、伊達西小学校放課後子ども教室では同様の問題は起きていないのでしょうか。

□委員

伊達西小学校側には特にそういった旨の連絡は入っていません。

□議長

コーディネーターの方は保護者や児童から、そういった声を聞いたことがありますか。

□委員

今のところはありません。ただ、もしコミュニティセンターで待機する場合には、児童ひとりで待機させるわけにはいかないもので、子ども教室の責任を果たすためにも、ボランティアスタッフが見守る必要があると思います。

●事務局

例えば、保護者の了解を得て、コミュニティセンターのホールにて待機させるような形が可能かどうか事務局と学校にて整理し、検討したいと思います。

□委員

仮に、子ども教室が終了し、コミュニティセンターのホールにて子どもを待機させている最中に、事故などが起きた場合、コミュニティセンターの管理人に責任が及ぶことはありますか。

●事務局

扱いとしては、学校終了後に一度帰宅し、コミュニティセンターに来ている子どもと同じでよいのではないかと思います。

□議長

その他に関連する内容などでございますか。

□委員

長和小学校の場合は、低学年と高学年の事業開始時間が違うので、学校とコミュニティセンター間の送迎をするボランティアスタッフのやりくりには苦勞します。

□議長

やはりマンパワーによる解決策しかないのでしょうか。

●事務局

ボランティアスタッフ数の増加の努力をしたいと思います。ただ、どうしても足りない非常時の状況においては、社会教育係の職員で対応したいと思います。やはりボランティアスタッフは必要ですが、なかなか見つけられないのが現状です。

□議長

伊達西小学校では、今年度も算数のプリントを中心に行っているのですか。

●事務局

はい。今年度も算数中心で、国語の漢字の「読み」の問題プリントも実施しています。

□議長

全国・全道各地で様々な子ども教室を実施しており、伊達市では「学習習慣の定着」を目的に実施していますが、子どもの学習の段階にも違いがあるので、プリントの難易度を下げて、何度も取り組ませるのはどうでしょうか。

●事務局

実際の状況として、プリントの難易度が簡単で、どんどん進める子どもがいるなかで、1枚のプリントにてこずる子どもも同じ学年に在籍している状況があり、非常に難しいと感じています。

□議長

次年度を迎えるにあたっての評価のできる点などございましたら、意見交流ができたと思います。例えば、子どもたち同士で教え合うことなんかはできるのでしょうか。

□委員

教え合うことは可能だと思います。しかし、取り組むプリントが1種類しか用意しておらず、段階別には設けていません。ただどうしても取り組むのが難しいような子どもがいれば、手作りの問題を作って、解答してもらうこともあります。

□議長

子ども教室で勉強を教えて、学力を伸ばしたいところではあるとは思いますが、子ども教室で勉強を教えることは、学校の領分に関わることであり、難しいのでしょうか。

●事務局

ボランティアスタッフのなかでも子どもたちにもっと勉強を教えたい、という方もいるかと思います。しかしながら、学校での教え方と異なれば学校側に迷惑をかけてしまいます。算数においては、純粋に答え合わせしたり、答えを導くヒントを出したり程度の方法で事業を実施しています。実情として、もっと掘り下げて教えたくとも、できない状況となっています。

□委員

子ども教室に参加し、学習プリントに取り組んでいるからには、こちらとしてもプリントの解答で沢山丸をつけたい気持ちはあります。しかし、プリントに手も足も出ない子どもがいるのも事実で、そのような子どもも同学年の児童と同じプリントに取り組み、進めたい気持ちも感じ取ることができるので、運営側としてもどのような取り組みが良いのだろうかという、難しさがあります。理想としては、たくさんあるプリントから、自分が取り組みたいプリントに取り組み、たくさんいるボランティアスタッフに解答してもらえる環境ですが、やはり人手の面で難しさが付きまとうのかなと感じます。

□議長

各学校の児童クラブの担当職員の方のご意見はどうでしょうか。

□委員

私は、今年度から現在の児童クラブへ異動となりました。学習の日については、「今日は勉強だった…」といった感想をもらす子どももいますが、「体験の日」のレクリエーションゲームの時には、みな汗だくの状態で児童クラブにやってきて、楽しい様子が伝わってきます。

□委員

私も、初めて子ども教室を体験しまして、特に1年生の子どもの中には、自分が子ども教室に参加するために、コミュニティセンターに行った後に、学校内の

児童クラブに帰ってきてねといった声掛けをしていましたし、学校の先生方も協力して下さるので、混乱なく進んでいるかと思います。また、子ども教室終了後も、コミュニティセンターから学校までボランティアスタッフの方が送迎して下さるので、全体を通してスムーズに終わられたと感じています。

□議長

第1回目の会議ということで、意見が出しづらいことがあったかもしれませんが、次回からは気が付いたことがあれば、どんどん意見を出していただきたいですし、都合の良いときにでも子ども教室の見学に来てもらえればと思います。

4. その他

- ・第2回伊達市放課後子ども教室運営委員会議の開催について
- ・放課後子ども教室の見学のご案内

5. 閉会（小林委員長）